



2023年3月期 決算短信(日本基準)(連結)

2023年5月15日

上場会社名 株式会社 NEW ART HOLDINGS
コード番号 7638 URL <https://www.newart-ir.jp/>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役会長兼社長 (氏名) 白石 幸生

問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役 (氏名) 神尾 常夫

TEL 03-3567-8098

定時株主総会開催予定日 2023年6月30日

配当支払開始予定日

2023年6月30日

有価証券報告書提出予定日 2023年6月30日

決算補足説明資料作成の有無 : 無

決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2023年3月期の連結業績(2022年4月1日～2023年3月31日)

(1) 連結経営成績

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期	21,463	14.6	3,304	22.4	3,371	14.7	1,727	16.8
2022年3月期	18,722	1.1	2,699	19.9	2,940	20.5	1,479	31.4

(注) 包括利益 2023年3月期 1,849百万円 (42.3%) 2022年3月期 1,299百万円 (32.0%)

	1株当たり当期純利益	潜在株式調整後 1株当たり当期純利益	自己資本 当期純利益率	総資産経常利益率	売上高営業利益率
	円 銭	円 銭	%	%	%
2023年3月期	110.56		18.4	15.6	15.4
2022年3月期	93.16		16.2	14.8	14.4

(参考) 持分法投資損益 2023年3月期 百万円 2022年3月期 百万円

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2023年3月期	22,394	9,398	41.2	611.54
2022年3月期	20,906	9,648	45.4	605.16

(参考) 自己資本 2023年3月期 9,232百万円 2022年3月期 9,498百万円

(3) 連結キャッシュ・フローの状況

	営業活動によるキャッシュ・フロー	投資活動によるキャッシュ・フロー	財務活動によるキャッシュ・フロー	現金及び現金同等物期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
2023年3月期	1,970	1,054	1,700	2,628
2022年3月期	1,903	926	843	3,322

2. 配当の状況

	年間配当金					配当金総額 (合計)	配当性向 (連結)	純資産 配当率 (連結)
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計			
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	百万円	%	%
2022年3月期		0.00		75.00	75.00	1,195	80.5	12.9
2023年3月期		0.00		100.00	100.00	1,536	90.4	16.4
2024年3月期(予想)		0.00		70.00	70.00			

3. 2024年3月期の連結業績予想(2023年4月1日～2024年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	11,000	7.2	1,600	14.4	1,600	0.0	990	7.0	64.42
通期	23,700	10.4	4,000	21.1	4,000	18.7	2,000	15.8	130.14

注記事項

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

以外の会計方針の変更 : 無

会計上の見積りの変更 : 無

修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)

2023年3月期	16,626,375 株	2022年3月期	16,626,375 株
2023年3月期	1,258,395 株	2022年3月期	683,082 株
2023年3月期	15,622,999 株	2022年3月期	15,880,312 株

期末自己株式数

期中平均株式数

決算短信は公認会計士又は監査法人の監査の対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通しなどの将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提にもとづいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績などは様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件および業績予想のご利用にあたっての注意事項などについては[添付資料]P5「1. 経営成績等の概況(4)今後の見通し」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当期の経営成績の概況	2
(2) 当期の財政状態の概況	4
(3) 当期のキャッシュ・フローの概況	4
(4) 今後の見通し	5
2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方	7
3. 連結財務諸表及び主な注記	8
(1) 連結貸借対照表	8
(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書	10
連結損益計算書	10
連結包括利益計算書	11
(3) 連結株主資本等変動計算書	12
(4) 連結キャッシュ・フロー計算書	14
(5) 連結財務諸表に関する注記事項	16
(継続企業の前提に関する注記)	16
(セグメント情報等)	16
(1株当たり情報)	21
(重要な後発事象)	21

1. 経営成績等の概況

(1) 当期の経営成績の概況

当連結会計年度は、売上高及び利益ともに前期を大きく上回る業績を挙げることが出来ました。基幹事業であるジュエリー・アート・オークション事業においては、国内主要都市への積極的な店舗展開と海外事業の回復により業績を牽引いたしました。積極的な事業展開を進める一方で、台湾関係会社清算損として2億500万円を計上及びヘルス&ビューティー事業の店舗減損として1億870万円の計上を済ませたことにより、2024年3月期以降はジュエリー・アート・オークション事業の業績がよりグループ全体の業績に直結する体制を整えました。

今後は主力であるジュエリー・アート・オークション事業の国内外における積極的な成長展開を推進すると共に、NEW ART総合研究所によるグループ企業のサポート体制を強化してまいります。当社は次期経営者の早期育成と事業継承の為、現在ブライダルジュエリー事業の代表取締役を務める白石哲也をNEW ARTグループの後継者候補として創業者白石幸生と共に2024年3月期も事業を大きく前進させてまいります。

当連結会計年度におけるグループの業績は、売上高214億6300万円（前期比14.6%増）、営業利益33億4000万円（前期比22.4%増）、経常利益33億7100万円（前期比14.7%増）、親会社株主に帰属する当期純利益17億2700万円（前期比16.8%増）となりました。

「みんなの夢の企業グループ NEW ARTはアートの持てるすべての力であなたを美と健康と幸せに導きます」という企業理念のもとに、2023年3月期の期末配当は2022年6月14日に発表させて頂きましたとおり、1株につき70円の普通配当に感謝特別配当30円を加算した1株につき100円と致します。

各セグメントの業績は次のとおりであります。

① ジュエリー・アート・オークション事業

当連結会計年度におけるジュエリー・アート・オークション事業の売上高は188億8000万円（前期比17.8%増）、セグメント利益は39億8000万円（前期比18.6%増）となりました。

ジュエリー事業においては、ダイヤモンドの仕入高アップや国内外ブランドの競争がある中で、順調に推移致しました。前連結会計年度より継続して実施している国内未出店エリアへの新規出店に関しては、宮崎市、四日市市、高知市、岐阜市へ銀座ダイヤモンドシライシとエクセルコダイヤモンドの統合店舗を4店舗新規オープンいたしました。また、既存店舗のららぽーと湘南平塚店と池袋パルコ店に併設する形でエクセルコダイヤモンドを2店舗新たにオープン致しました。2024年3月期においても4月14日に仙台地区で2拠点目となる「銀座ダイヤモンドシライシ/エクセルコダイヤモンド仙台パルコ2店」5月26日には沖縄県への初出店となる「銀座ダイヤモンドシライシ/エクセルコダイヤモンド沖縄パルコシティ店」を出店し6月以降も数店舗の出店を準備中です。

現在このように全国展開を推進できる一番の要因として2019年から放映しているTVCMによる認知度の向上が挙げられます。「世界の中心で愛を叫ぶ」等を手掛けた恋愛映画の巨匠、行定勲監督が描くTVCMは銀座ダイヤモンドシライシの認知度を大きくあげ、新規出店地区においても大きな反響を得ています。これまでいくつものプロポーズと共通する「日常のなかにある特別な瞬間、そこに存在するダイヤモンドの輝き」をテーマに、2023年4月からは各種映画賞受賞歴があり注目を集める俳優の若葉竜也さんと木竜麻生さんを新たなキャストに迎えた「きみの寝顔」篇の放映も始まっており、さらなる全国的な認知度の向上を図ってまいります。

今後もグループの基幹事業として経済情勢をみながら積極的な成長展開と製造部門の強化を行い、利益創出をしてまいります。

アート・オークション事業においてプライベートセールは、新聞広告による集客が奏功し高額作品の販売が実施され、業績に寄与することが出来ました。オークションにおいては国内にて4回のオークションを開催致しました。

また、2023年5月28日には世界のアート市場の中心である香港にてエストウエストオークションズとしては3年ぶりの海外オークションを開催致します。オークション会場は世界の名だたるメガギャラリーが集結するH QUEEN'Sで実施します。出品する作品は現在香港の現代美術館「M+」で展覧会が開催されている草間彌生の草間作品を中心に80点、具体、奈良美智、村上隆、ロッキアアヤコなど日本のコンテンポラリーアートを代表する作家の作品80点合計160点が登場致します。香港オークションの落札価格（ハンマープライス）は全体で20億円前後を予定しております。今後も国内外において7月東京、9月香港、11月東京、2024年1月シンガポール、3月香港と定期的にオークションを開催致します。今後もNEW ART グループの柱となるよう、国際的なオークションハウスとして積極的に事業を展開してまいります。

② ヘルス&ビューティー事業

当連結会計年度におけるヘルス&ビューティー事業の売上高はコロナの影響も残り22億11百万円（前期比12.5%減）、セグメント損失は2億31百万円（前期はセグメント損失4億85百万円）となりました。

当連結会計年度は、エステ事業の抜本的な改革としてブライダルジュエリーで成功しているマンツーマン接客を取り入れました。カウンセリングと施術を別スタッフが担当する接客から、一人のスタッフが全て一貫して担当する接客に変更しお客様の満足度を上げ継続率アップを図りました。なお、当連結会計年度において減損兆候のある店舗は既に減損損失を計上しております。新事業年度においてはエステ事業の抜本的改革の継続と共に健康食品のサプリメントや化粧品の研究開発を進め、NEW ART総合研究所の経営サポートを受けながら事業の推進を図ります。

③ その他事業

スポーツ事業においては、「CRAZY」ブランドで展開しているゴルフクラブの販路を広げるため、スポーツ量販店ゼビオ・ヴィクトリアへの卸売を推進致しました。2023年3月末時点で、全国36店舗への展開が済んでおります。また、NEW ART総合研究所と連携しゴルフ用品の開発も進めており、新商品が誕生することで新しい売上が期待されます。

フィンテック事業においては、ヘルス&ビューティーのクレジットをすべて（100%）引き受け、確実に利益の出る体制の計画実現の為、業容拡大を目指して人員を増加し大きく成長できる事業体制の構築を進めました。

これらの事業の業績を集計した結果、売上高は4億9百万円（前期比117.2%増）、セグメント損失67百万円（前期はセグメント損失25百万円）となりました。

（注）各セグメントの業績数値は、セグメント間の内部売上高または振替高を調整前の金額で記載しています。

当社グループのセグメント別売上は、下記のとおりであります。

セグメント区分	販売・サービスの名称など	当連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日) (千円)	前年同期比 (%)	構成比 (%)
ジュエリー・アート・オークション事業	ブライダルジュエリーの製造・販売、ブライダル関連サービス、美術品の販売等・アートオークションの運営等	18,879,406	17.8	88.0
ヘルス&ビューティー事業	エステティックサロンの運営、化粧品及び健康食品等の製造・販売	2,173,947	△13.5	10.1
その他事業	クレジット事業、ゴルフ用品の製造・販売、関連スポーツ用品の開発・製造、ホテル・結婚式場の運営・リゾート開発事業	409,869	117.2	1.9
合 計		21,463,223	14.6	100.0

（注）セグメント間の取引については相殺消去しております。

(2) 当期の財政状態の概況

(資産の部)

流動資産は、前連結会計年度末比93百万円増加（前連結会計年度末比0.7%増）し、131億4百万円となりました。これは主に、現金及び預金が6億58百万円、商品及び製品が5億44百万円減少した一方で、販売用不動産が11億18百万円、受取手形、売掛金及び契約資産が88百万円増加したことによるものであります。

固定資産は、前連結会計年度末比13億94百万円増加（同17.7%増）し、92億89百万円となりました。これは主に、土地が8億59百万円、繰延税金資産が1億58百万円、建物及び構築物が1億42百万円増加したことによるものであります。

この結果、総資産は前連結会計年度末比14億87百万円増加（同7.1%増）し、223億94百万円となりました。

(負債の部)

流動負債は、前連結会計年度末比4億45百万円増加（前連結会計年度末比5.3%増）し、88億94百万円となりました。これは主に、支払手形及び買掛金が2億8百万円減少した一方で、未払法人税等が3億97百万円、1年内返済予定の長期借入金が1億78百万円増加したことによるものであります。

固定負債は、前連結会計年度末比12億92百万円増加（同46.0%増）し、41億1百万円となりました。これは主に、長期借入金が11億93百万円増加したことによるものであります。

この結果、負債合計は前連結会計年度末比17億38百万円増加（同15.4%増）し、129億96百万円となりました。

(純資産の部)

純資産は、前連結会計年度末比2億50百万円減少（前連結会計年度末比2.6%減）し、93億98百万円となりました。これは主に、親会社株主に帰属する当期純利益が17億27百万円あった一方で、剰余金の配当が11億95百万円、自己株式の取得が9億4百万円あったことによるものであります。

以上の結果、自己資本比率は41.2%（前連結会計年度末は45.4%）となりました。

(3) 当期のキャッシュ・フローの概況

当連結会計年度における現金及び現金同等物（以下、資金という）は、前連結会計年度末に比べ、6億94百万円減少し、26億28百万円となりました。各キャッシュ・フローの状況と要因は、以下のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果獲得した資金は、19億70百万円（前年同期比66百万円増）となりました。これは主に、法人税等の支払額が13億3百万円、棚卸資産の増減額が5億85百万円あった一方で、税金等調整前当期純利益が29億15百万円、法人税等の還付額が5億64百万円、減価償却費が3億38百万円あったことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果支出した資金は、10億54百万円（前年同期比1億27百万円増）となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出が8億34百万円、敷金及び保証金の差入による支出が1億10百万円、投資有価証券の取得による支出が1億8百万円あったことによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果支出した資金は、17億円（前年同期比8億56百万円増）となりました。これは主に、長期借入れによる収入が18億78百万円あった一方で、配当金の支払額が11億79百万円、長期借入金の返済による支出が9億86百万円、自己株式の取得による支出が9億4百万円あったことによるものであります。

(4) 今後の見通し

ジュエリー国内事業については、今後も地方都市を中心に店舗展開を推進し、新規顧客の開拓を図ります。新規出店する地区に関しては行定勲監督の新CMで若葉竜也さんと木竜麻生さんを起用した「きみの寝顔」篇の放映も始まっており、さらなる全国的な認知度の向上を図ってまいります。また、ブライダル関連取引先からの集客を改善する為の施策も並行して実施いたします。引き続きダイヤモンド及び地金の仕入高はアップしている為、製造部門の強化を行い、原価の改善による利益創出をしてまいります。海外事業については、台湾、香港においてより効果的な集客施策と販売スキルの底上げを行うことで、さらに売上の上上ができると考えております。

アート・オークション事業については、5月の香港オークションをスタートに7月東京、9月香港、11月東京、2024年1月シンガポール、3月香港と国内外にて開催いたします。また、中国、韓国、日本、香港、シンガポール、マレーシア、フィリピン等の有名オークションハウスとニューアート・エストウエストオークションズが業務提携しアジアオークション連合として積極的に事業を展開してまいります。

ヘルス&ビューティー事業については、エステ事業のマンツーマン接客を確立する事で社員のスキルアップと顧客継続率アップを実現いたします。また、NEW ART総合研究所が中小のエステティックサロンとの業務提携を進めながらエステティックサロン経営連合を推進することで、化粧品、健康食品など新商品の企画、開発を進めて参ります。

フィンテック事業においては、クレジット事業と軽井沢リゾート開発事業を推進致します。クレジット事業はヘルス&ビューティーのクレジットをすべて(100%)引き受ける体制構築を進めております。2024年3月期に全店受入完了予定で内製化が実現する事で確実に利益の出る体制を構築してまいります。

軽井沢リゾート開発事業は当初予定していた不動産の取得が進行し企画、開発を進めてまいります。旧軽井沢の中央通りに面した1万平米の土地を購入し、アート・ファッション・グルメ・宿泊を兼ね備えた施設を計画中です。また、中軽井沢駅から徒歩10分程の場所にも1万平米を超える土地を近々購入予定であります。軽井沢の不動産価格は直近10年間に上昇傾向にあり今後も10年~20年上昇が見込まれている為、グループ資産としての将来性もあります。当社グループのリゾート開発により更に魅力的なエリアとなるよう開発を進めてまいります。

スポーツ事業においては、「CRAZY」ブランドで展開しているゴルフクラブの販路拡大とブランド開発研究所によるゴルフ用品全般の企画、開発を推進致します。ゴルフ用品の企画・開発を進める事でゼビオ・ヴィクトリア店への卸売上が向上し更なる売上拡大ができる事業であると考えております。また、新事業年度よりNEW ART総合研究所が経営サポートと新商品の企画、開発に積極的に関わり、新商品が誕生することで新しい売上が期待されます。

※ 本資料の上記の予想は、発表日現在において、入手可能な情報にもとづき作成したものであり、実際の業績は業況の変化や予期せぬ事象の発生などによって、大きく異なる結果となる可能性があります。

当社グループのキャッシュ・フロー指標のトレンドは、以下のとおりであります。

	2019年3月期	2020年3月期	2021年3月期	2022年3月期	2023年3月期
自己資本比率 (%)	48.9	47.8	47.0	45.4	41.2
時価ベースの自己資本比率 (%)	59.7	52.7	92.9	93.16	125.5
キャッシュ・フロー対有利子負債比率 (%)	248.5	300.4	188.3	326.0	382.0
インタレスト・カバレッジ・レシオ (倍)	45.7	42.5	51.0	32.7	28.2

自己資本比率：自己資本／総資産

時価ベースの自己資本比率：株式時価総額／総資産

キャッシュ・フロー対有利子負債比率：有利子負債／営業キャッシュ・フロー

インタレスト・カバレッジ・レシオ：営業キャッシュ・フロー／利払い

(注1) いずれも連結ベースの財務数値により計算しております。

- (注2) 株式時価総額は自己株式を除く発行済株式数をベースに計算しております。
- (注3) 有利子負債は、連結貸借対照表に計上されている負債のうち、利子を支払っているすべての負債を対象としております。
- (注4) 営業キャッシュ・フロー及び利払いは、連結キャッシュ・フロー計算書に計上されている「営業活動によるキャッシュ・フロー」及び「利息の支払額」を用いております。

2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方

当社グループは、連結財務諸表の期間比較可能性及び企業間の比較可能性を考慮し、当面は、日本基準で連結財務諸表を作成する方針です。

なお、国際会計基準の適用につきましては、国内外の諸情勢を考慮の上、適切に対応していく方針です。

3. 連結財務諸表及び主な注記

(1) 連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当連結会計年度 (2023年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,322,781	2,664,237
受取手形、売掛金及び契約資産	1,767,720	1,855,947
商品及び製品	7,000,188	6,455,520
仕掛品	45,081	50,253
原材料及び貯蔵品	244,909	251,780
販売用不動産	—	1,118,021
前払費用	157,861	162,491
その他	837,640	846,734
貸倒引当金	△365,492	△300,456
流動資産合計	13,010,691	13,104,529
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	3,913,186	5,190,405
減価償却累計額	△1,172,820	△2,186,940
減損損失累計額	△846,642	△966,802
建物及び構築物 (純額)	1,893,723	2,036,662
機械装置及び運搬具	28,726	77,591
減価償却累計額	△23,829	△73,887
機械装置及び運搬具 (純額)	4,896	3,704
工具、器具及び備品	2,365,228	2,508,033
減価償却累計額	△993,749	△1,115,708
減損損失累計額	△542,255	△561,234
工具、器具及び備品 (純額)	829,223	831,090
土地	2,456,250	3,315,761
リース資産	459,702	487,147
減価償却累計額	△154,574	△196,069
減損損失累計額	△31,752	△43,036
リース資産 (純額)	273,375	248,041
建設仮勘定	80,539	209,638
有形固定資産合計	5,538,007	6,644,898
無形固定資産		
のれん	168,973	284,108
その他	32,468	71,357
無形固定資産合計	201,442	355,465
投資その他の資産		
投資有価証券	355,752	290,471
長期貸付金	250,400	183,200
敷金及び保証金	1,247,317	1,351,639
繰延税金資産	268,797	427,669
その他	314,668	329,374
貸倒引当金	△280,745	△292,965
投資その他の資産合計	2,156,190	2,289,390
固定資産合計	7,895,640	9,289,753
資産合計	20,906,332	22,394,283

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当連結会計年度 (2023年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	482,884	274,161
短期借入金	3,620,000	3,536,000
1年内返済予定の長期借入金	577,441	755,696
リース債務	96,622	86,188
未払金及び未払費用	843,337	985,411
未払法人税等	389,624	787,201
契約負債	1,653,104	1,826,230
その他	785,769	643,623
流動負債合計	8,448,783	8,894,513
固定負債		
長期借入金	1,054,362	2,248,301
リース債務	185,927	128,041
退職給付に係る負債	236,458	247,318
資産除去債務	650,904	660,197
その他	681,644	817,810
固定負債合計	2,809,296	4,101,670
負債合計	11,258,079	12,996,183
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,617,252	2,617,252
資本剰余金	2,474,276	2,474,276
利益剰余金	5,263,667	5,795,246
自己株式	△499,283	△1,403,305
株主資本合計	9,855,913	9,483,469
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	27,393	△53,425
為替換算調整勘定	△384,597	△197,204
その他の包括利益累計額合計	△357,203	△250,630
非支配株主持分	149,542	165,260
純資産合計	9,648,252	9,398,099
負債純資産合計	20,906,332	22,394,283

(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書
(連結損益計算書)

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	当連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
売上高	18,722,257	21,463,223
売上原価	6,574,031	7,920,731
売上総利益	12,148,226	13,542,492
販売費及び一般管理費	9,448,832	10,237,983
営業利益	2,699,394	3,304,509
営業外収益		
受取利息及び配当金	10,633	10,058
為替差益	312,072	123,097
助成金収入	18,180	14,656
その他	20,735	10,856
営業外収益合計	361,621	158,668
営業外費用		
支払利息	57,921	69,636
貸倒引当金繰入額	57,217	8,959
その他	5,521	12,672
営業外費用合計	120,660	91,269
経常利益	2,940,355	3,371,908
特別利益		
固定資産売却益	45,184	—
投資有価証券売却益	—	1,170
特別利益合計	45,184	1,170
特別損失		
固定資産除却損	2,931	—
減損損失	768,761	187,280
関係会社株式評価損	—	20,331
関係会社清算損	—	250,104
その他	249	—
特別損失合計	771,942	457,716
税金等調整前当期純利益	2,213,597	2,915,362
法人税、住民税及び事業税	798,376	1,265,527
法人税等調整額	△97,754	△93,208
法人税等合計	700,621	1,172,319
当期純利益	1,512,975	1,743,043
非支配株主に帰属する当期純利益	33,591	15,717
親会社株主に帰属する当期純利益	1,479,383	1,727,325

(連結包括利益計算書)

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	当連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
当期純利益	1,512,975	1,743,043
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	27,212	△80,819
為替換算調整勘定	△240,529	187,392
その他の包括利益合計	△213,317	106,573
包括利益	1,299,658	1,849,616
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	1,266,066	1,833,898
非支配株主に係る包括利益	33,591	15,717

(3) 連結株主資本等変動計算書

前連結会計年度(自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)

(単位:千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	2,617,252	2,376,202	4,580,542	△637,490	8,936,506
会計方針の変更による累積的影響額			△8,661		△8,661
会計方針の変更を反映した当期首残高	2,617,252	2,376,202	4,571,880	△637,490	8,927,844
当期変動額					
剰余金の配当			△787,596		△787,596
親会社株主に帰属する当期純利益			1,479,383		1,479,383
自己株式の処分		98,074		141,938	240,013
自己株式の取得				△3,731	△3,731
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					
当期変動額合計	-	98,074	691,786	138,207	928,068
当期末残高	2,617,252	2,474,276	5,263,667	△499,283	9,855,913

	その他の包括利益累計額			非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	為替換算調整勘定	その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	181	△144,067	△143,886	-	8,792,620
会計方針の変更による累積的影響額					△8,661
会計方針の変更を反映した当期首残高	181	△144,067	△143,886	-	8,783,958
当期変動額					
剰余金の配当					△787,596
親会社株主に帰属する当期純利益					1,479,383
自己株式の処分					240,013
自己株式の取得					△3,731
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	27,212	△240,529	△213,317	149,542	△63,774
当期変動額合計	27,212	△240,529	△213,317	149,542	864,294
当期末残高	27,393	△384,597	△357,203	149,542	9,648,252

当連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)

(単位:千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	2,617,252	2,474,276	5,263,667	△499,283	9,855,913
当期変動額					
剰余金の配当			△1,195,746		△1,195,746
親会社株主に帰属する当期純利益			1,727,325		1,727,325
自己株式の取得				△904,022	△904,022
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					
当期変動額合計	—	—	531,578	△904,022	△372,443
当期末残高	2,617,252	2,474,276	5,795,246	△1,403,305	9,483,469

	その他の包括利益累計額			非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	為替換算調整勘定	その他の包括利益累 計額合計		
当期首残高	27,393	△384,597	△357,203	149,542	9,648,252
当期変動額					
剰余金の配当					△1,195,746
親会社株主に帰属する当期純利益					1,727,325
自己株式の取得					△904,022
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	△80,819	187,392	106,573	15,717	122,290
当期変動額合計	△80,819	187,392	106,573	15,717	△250,152
当期末残高	△53,425	△197,204	△250,630	165,260	9,398,099

(4) 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	当連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	2,213,597	2,915,362
減価償却費	312,908	338,866
減損損失	768,761	187,280
のれん償却額	36,480	42,548
関係会社清算損益(△は益)	—	250,104
貸倒引当金の増減額(△は減少)	136,702	3,817
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	13,503	10,860
受取利息及び受取配当金	△10,633	△10,058
支払利息	57,921	69,636
為替差損益(△は益)	△11,990	△22,937
固定資産売却益	△45,184	—
固定資産除却損	2,931	—
投資有価証券売却損益(△は益)	—	△1,170
関係会社株式評価損	—	20,331
売上債権の増減額(△は増加)	△271,157	△85,165
棚卸資産の増減額(△は増加)	△186,336	△585,024
仕入債務の増減額(△は減少)	248,735	△221,206
未払金及び未払費用の増減額(△は減少)	△40,422	132,820
契約負債の増減額(△は減少)	8,657	160,375
未払又は未収消費税等の増減額	△68,032	△285,950
その他の流動資産の増減額(△は増加)	△32,042	△144,288
その他の流動負債の増減額(△は減少)	13,910	75,342
その他	△240,669	△81,914
小計	2,907,640	2,769,631
利息及び配当金の受取額	10,633	10,058
利息の支払額	△58,144	△70,001
法人税等の還付額	234,229	564,674
法人税等の支払額	△1,190,650	△1,303,780
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,903,707	1,970,582
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	—	△36,000
有形固定資産の取得による支出	△607,468	△834,778
有形固定資産の売却による収入	49,235	—
無形固定資産の取得による支出	△1,721	△59,783
投資有価証券の取得による支出	△299,449	△108,869
投資有価証券の売却による収入	—	58,832
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	△44,544	—
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による収入	—	8,965
関係会社株式の取得による支出	—	△21,691
敷金及び保証金の差入による支出	△76,105	△110,548
敷金及び保証金の回収による収入	10,801	24,886
長期貸付けによる支出	△25,000	—
長期貸付金の回収による収入	62,400	67,200
その他	5,505	△42,278
投資活動によるキャッシュ・フロー	△926,346	△1,054,066

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	当連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	10,000	△168,562
長期借入れによる収入	700,000	1,878,708
長期借入金の返済による支出	△489,830	△986,741
割賦債務の返済による支出	△176,605	△240,208
リース債務の返済による支出	△98,177	△99,855
自己株式の取得による支出	△3,731	△904,022
配当金の支払額	△785,603	△1,179,329
財務活動によるキャッシュ・フロー	△843,948	△1,700,011
現金及び現金同等物に係る換算差額	56,219	88,951
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	189,632	△694,543
現金及び現金同等物の期首残高	3,133,148	3,322,781
現金及び現金同等物の期末残高	3,322,781	2,628,237

(5) 連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものです。

当社グループは国内外のジュエリー・アート・オークション事業及びヘルス&ビューティー事業を主な事業内容としており、関連する事業を法人化して、グループ運営を行っております。

したがって、当社グループはサービス内容・経済的特徴を考慮したうえで事業セグメントを集約し「ジュエリー・アート・オークション事業」、「ヘルス&ビューティー事業」、「その他事業」を報告セグメントとしております。

各セグメントの事業概要は以下のとおりであります。

セグメント区分	事業内容
ジュエリー・アート・オークション事業	ブライダルジュエリーの製造・販売、ブライダル関連サービス、美術品の販売・アートオークションの運営等
ヘルス&ビューティー事業	エステティックサロンの運営、化粧品及び健康食品等の製造・販売
その他事業	クレジット事業、ゴルフ用品の製造・販売、関連スポーツ用品の開発・製造、ホテル・結婚式場の運営・リゾート開発事業

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」と概ね同一であります。

報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値です。

セグメント間の内部収益及び振替高は、市場実勢価格に基づいております。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報及び収益の分解情報

前連結会計年度（自 2021年4月1日 至 2022年3月31日）

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	連結財務諸表 計上額 (注) 2
	ジュエリー・ アート・オー クション事業	ヘルス&ビュ ーティー事業	その他事業	合計		
売上高						
顧客との契約から生じる収益	15,988,766	2,506,588	165,959	18,661,314	—	18,661,314
その他の収益 (注) 3	32,731	5,466	22,746	60,943	—	60,943
外部顧客への売上高	16,021,498	2,512,054	188,705	18,722,257	—	18,722,257
セグメント間の内部売上高 又は振替高	2,532	16,258	—	18,791	△18,791	—
計	16,024,030	2,528,313	188,705	18,741,049	△18,791	18,722,257
セグメント利益又は損失 (△)	3,355,313	△485,894	△25,650	2,843,767	△144,373	2,699,394
セグメント資産	13,309,393	1,340,762	2,359,684	17,009,840	3,896,491	20,906,332
その他の項目						
減価償却費	201,896	78,945	6,741	287,583	25,324	312,908
のれんの償却額	15,361	21,119	—	36,480	—	36,480
有形固定資産及び無形固 定資産の増加額	128,017	39,699	451,847	619,565	3,259	622,824

(注) 1. 調整額の内容は以下のとおりであります。

- (1) セグメント利益又は損失の調整額は全社費用であります。全社費用は主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
- (2) セグメント資産の調整額には、各セグメントに配分していない全社資産4,201,875千円及びセグメント間債権債務消去△305,384千円を含んでおります。
- (3) 減価償却費の調整額は、各セグメントに配分していない全社資産に係る資産の減価償却であります。
- (4) 有形固定資産及び無形固定資産の増加額の調整額は、各セグメントに配分していない全社資産であります。

2. セグメント利益又は損失は、連結損益計算書の営業利益と調整しております。

3. その他の収益には、企業会計基準第10号「金融商品に関する会計基準」の範囲に含まれる金融商品に係る取引、企業会計基準第13号「リース取引に関する会計基準」の範囲に含まれるリース取引等が含まれております。

当連結会計年度（自 2022年4月1日 至 2023年3月31日）

（単位：千円）

	報告セグメント				調整額 (注) 1	連結財務諸表 計上額 (注) 2
	ジュエリー・ アート・オー クシヨシ事業	ヘルス&ビュ ーティ事業	その他事業	合計		
売上高						
顧客との契約から生じる収益	18,840,835	2,169,906	371,172	21,381,915	—	21,381,915
その他の収益 (注) 3	38,571	4,040	38,697	81,308	—	81,308
外部顧客への売上高	18,879,406	2,173,947	409,869	21,463,223	—	21,463,223
セグメント間の内部売上高 又は振替高	1,068	37,145	—	38,214	△38,214	—
計	18,880,475	2,211,092	409,869	21,501,438	△38,214	21,463,223
セグメント利益又は損失 (△)	3,980,976	△231,460	△67,103	3,682,413	△377,904	3,304,509
セグメント資産	12,140,158	1,142,390	4,718,131	18,000,681	4,393,601	22,394,283
その他の項目						
減価償却費	238,288	51,733	21,592	311,613	27,252	338,866
のれんの償却額	30,722	—	11,826	42,548	—	42,548
有形固定資産及び無形固 定資産の増加額	141,645	50,090	594,950	786,686	122,329	909,016

(注) 1. 調整額の内容は以下のとおりであります。

- (1) セグメント利益又は損失の調整額は全社費用であります。全社費用は主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
 - (2) セグメント資産の調整額には、各セグメントに配分していない全社資産4,731,107千円及びセグメント間債権債務消去△337,505千円を含んでおります。
 - (3) 減価償却費の調整額は、各セグメントに配分していない全社資産に係る資産の減価償却であります。
 - (4) 有形固定資産及び無形固定資産の増加額の調整額は、各セグメントに配分していない全社資産であります。
2. セグメント利益又は損失は、連結損益計算書の営業利益と調整しております。
3. その他の収益には、企業会計基準第10号「金融商品に関する会計基準」の範囲に含まれる金融商品に係る取引、企業会計基準第13号「リース取引に関する会計基準」の範囲に含まれるリース取引等が含まれております。

【関連情報】

前連結会計年度（自 2021年4月1日 至 2022年3月31日）

1. 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

該当事項はありません。

当連結会計年度（自 2022年4月1日 至 2023年3月31日）

1. 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

該当事項はありません。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度（自 2021年4月1日 至 2022年3月31日）

（単位：千円）

	ジュエリー・アート・オークション事業	ヘルス&ビューティー事業	その他事業	合 計
減損損失	36,604	732,156	—	768,761

当連結会計年度（自 2022年4月1日 至 2023年3月31日）

（単位：千円）

	ジュエリー・アート・オークション事業	ヘルス&ビューティー事業	その他事業	合 計
減損損失	—	187,280	—	187,280

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度（自 2021年4月1日 至 2022年3月31日）

（単位：千円）

	ジュエリー・アート・オークション事業	ヘルス&ビューティー事業	その他事業	合 計
当期償却額	15,361	21,119	—	36,480
当期末残高	168,973	—	—	168,973

当連結会計年度（自 2022年4月1日 至 2023年3月31日）

（単位：千円）

	ジュエリー・アート・オークション事業	ヘルス&ビューティー事業	その他事業	合 計
当期償却額	30,722	—	11,826	42,548
当期末残高	138,251	—	145,856	284,108

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

前連結会計年度（自 2021年4月1日 至 2022年3月31日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自 2022年4月1日 至 2023年3月31日）

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

	前連結会計年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	当連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
1株当たり純資産額	605円16銭	611円54銭
1株当たり当期純利益	93円16銭	110円56銭

- (注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
2. 1株当たり当期純利益の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	当連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
親会社株主に帰属する当期純利益(千円)	1,479,383	1,727,325
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する当期純利益(千円)	1,479,383	1,727,325
期中平均株式数(千株)	15,880	15,622

(重要な後発事象)

該当事項はありません。